私が思う怖いもの

そのメロディに魅せられて♪

よっぱらい

『帰ってきたヨッパライ』
（『ゴールデン☆ベスト　フォーク・クルセダーズ』所収）
フォーク・クルセダーズ　K1フ03083　　篠崎ほか所蔵

今号はテーマに合わせて、私が思う怖いものをご紹介します。それはズバリ「よっぱらい」。お祝い事や法事など何かあると一堂に会する親戚のおじ様たち、お酒がすすむとそれはもう面倒な事に……。私にとって絶対に近づきたくない存在となりました。なのに、度々遭遇してしまうこの「よっぱらい」、すぐに思いつくのが今回の歌です。結構ヘビーな内容を明るく歌っており、最後のオチをどうとらえるかは人それぞれだと思いますが、お酒を飲む機会の多いこの季節、飲みすぎないようにお気を付け下さい。

人間

『殺人の歴史』
ベルナール・ウダン著
創元社
368.6ウ
篠崎ほか所蔵

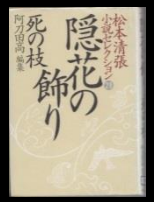
法が確立した現代における殺人は、そのほとんどが“異常な行為”といえる。その中には“奇異なもの”があり、それは様々な形で多くの人々の興味の対象となってきた。現在、事件を逐次中継するニュース番組は、もはや“ショー・ビジネス”である。本当に恐ろしいのは、それらを娯楽へと昇華させる我々なのである。

金縛り

『「金縛り」の謎を解く』
福田　一彦著
ＰＨＰ研究所
145フ
篠崎ほか所蔵

私は大学生の頃から「金縛り」を体験するようになり、恐怖を感じつつも「疲れているだけだ」と言い聞かせていました。本書では科学的に「金縛り」のメカニズムを解明し、“なぜ体の上に何かが乗っているように感じるか”についてなども、かなり詳しく検証されています。心霊現象ではないのは安心したけれど、「金縛り」になる私の健康状態が今度は怖くなりました。

女性の情念



『足袋』　（『松本清張小説セレクション28』所収）
松本　清張著
中央公論社
Fマ28
篠崎ほか所蔵

38歳で独身の京子は謡曲の師匠をしていたが、42歳の妻子ある男弟子、村井と不倫関係にあった。この関係は1年ほど続き、あることがきっかけでぱっけなく終わった。未練のある京子は、深夜村井の家の周りをうろつくようになる。地を舐めるような足袋の音……。ああ、切ないと同時に、女性の怖さが、ひんやりと伝わってくる短編である。

死を前にしての後悔

『イワン・イリイチの死』（『イワン・イリイチの死／クロイツェル・ソナタ』所収）
トルストイ著
光文社古典新訳文庫
B983ト　篠崎ほか所蔵

順風満帆の人生を歩んできたイワンが病に苦しめられ、死が近づいてきたとき、ふと彼の頭に“もしも本当に自分の全生涯が、物心ついてからの生涯が「過ち」だったとしたら”という考えが浮かんだ。この精神的苦痛のために、彼は三日間、恐ろしい絶叫を発し続けるのだった。死を前にしての後悔……、考えただけでもゾッとする。

初対面

『さようなら！「人見知り」』
麻生　けんたろう著
同文舘出版
361.4ア
篠崎ほか所蔵

人見知りで内気な性格の私。初対面の人と会うという日は、緊張して腹痛に襲われます。いざその時になると何か話さないと悪いと思い、頑張って話すがロクな話題を提供できず、気まずい雰囲気に……。そんな初対面が怖い私みたいな人に、オススメなのが本書。会話を弾ませるテクニックが満載で、初対面の恐怖も乗り越えられます。

ヒグマ

『羆嵐』
吉村　昭著
新潮文庫
BFヨ
篠崎ほか所蔵

大正初期、北海道の開拓村でヒグマに民家を次々と襲撃され、多くの死傷者を出すという事件がありました。そのヒグマは体の大きさ（2.7m）と、死体の肉を食らい妊婦の腹を裂くという残虐さで村人を震撼させたそうです。この事件を知って、熊への恐怖が倍増しました。昔、サーカスの小さな熊と記念撮影しましたが、その熊でさえ恐ろしかったので、野生の熊は半端ないに違いないです。

高所

『鳶』
多湖　弘明著
洋泉社
525タ
篠崎ほか所蔵

私は高い所から下を覗くとお尻がそわそわ〜として、吸い込まれそうになる典型的な高所恐怖症です。見晴しが良いと言われるスポットでは、だいだい足がブルブル震えて楽しめません。昔、旅行で行った東尋坊の崖の所では、あまりの恐怖に腰を抜かしてしまい友達に助けてもらったほどです。なので日夜、高いところで働いている鳶職の人たちは本当にすごいと思います。

いじめ

『いじめられている君へ　いじめている君へ　いじめを見ている君へ』
秋元　才加ほか著
朝日新聞出版
J371イ　　篠崎ほか所蔵

いじめは心に深い傷を負わせ、時には命にも関わることのある大変恐ろしいものです。この本はアイドル、作家、スポーツ選手など、様々な著名人がいじめについて自分の想いを語っています。タイトル通り、全ての人に向けたメッセージが詰まった本です。若い人だけではなく大人にも読んでいただきたい一冊です。

ゴキブリ

『ゴキブリ大全』
デヴィッド・ジョージ・ゴードン著
青土社
486コ
篠崎ほか所蔵

その存在自体が恐怖！と思う人もたくさんいるのではないでしょうか？　私もその1人です。そんなゴキブリ、3億年以上もの歴史があることをご存知ですか？　恐いと思って敬遠しているものにも、実は多くの驚きの事実が隠されているものなのです。是非この機会に、いつもなら触れることのないものに触れてみてはいかがでしょうか。

世界の終わり

『終末のフール』
伊坂　幸太郎著
集英社
Fイ
篠崎ほか所蔵

この物語は8年後に地球が滅亡すると発表されてから5年後の、仙台の団地に住む人々の話です。残された時間で彼らは何をするのか。本書を通して、日々の大切さを考えさせられました。世界が終わってしまうなんてとても怖いことだと思いますが、もし自分が地球滅亡宣言を受けたら、恐怖を通り越して何も考えられないでしょう。